



つばい たかひと
坪井孝仁 議員

Takahito Tsuboi

Q&A

一般質問

Q.子ども食堂や学習支援は A.町の方向性と一致するため必要

3月定例会

質疑・討論

トピックス

一般質問

なかよし会やふれあい広場に加え、昨年から子ども食堂や中学生以上を対象にしたジュニアリーダークラブなどが発足され、学校や家庭とは違う、地域での子供の居場所づくりが進められている。行政としてこういった活動が過性の活動ではなく、安定して継続できるように環境を整えていく必要がある。

Q 町が考える「子どもの居場所」とは

A 生活福祉部長

子どもたちが家庭や学校以外で地域の子どもや大人たちと交流できる場所である。

Q 子ども食堂、ジュニアリーダークラブの活動は把握しているか。

A 生活福祉部長

子ども食堂については、2カ月に一度、社会

教育センターにて開催している。

A 教育委員会事務局長

ジュニアリーダークラブについては、子ども会連絡協議会において、今年度4月に発足され、現在41名が活動している。

Q 子ども食堂や学習支援、ジュニアリーダークラブなどの必要性は。

A 生活福祉部長

子ども食堂や学習支援は町の施策の方向性と一致するため必要である。

A 教育委員会事務局

ジュニアリーダークラブは子どもの居場所としての機能を持つ、有効な組織である。

Q 町の北部には、学習等供用施設が無い。新給食センターを整備すると同時にセンター

に隣接するような供用施設を設けてはどうか。また、町長が大切にしている子どもたちの食育に特化した(具体的には親子での料理教室など可能)施設を設けてはどうか。また、水害などにも安心な場所であるため、指定避難所としての機能も持たせられるのではないか。そして、今回の居場所づくりの場として、子ども食堂や学習支援なども開催できるのではないか。

A 生活福祉部長

施設の設置は土地利用も含め考える必要がある。現在策定が進められている次期都市計画マスタープランの方向性も考慮しながら検討していく。

Q 子ども食堂などの活動が安定して継続運営していくために

は、行政として事業資金援助が必要ではないか。

A 生活福祉部長

先進自治体について調査研究を行う。

Q 子どもの居場所の環境づくりを効果的にするため組織改革はしないのか。

A 生活福祉部長

子ども・子育てを取り巻く施設はあらゆる分野にわたる。福祉課が連携のコーディネーター機関としての実績とノウハウを蓄積し、各機関との連携のハブ機能の役割を果たせるように努める。



▲ジュニアリーダーに期待